

ちつぽけな世界の端つこで

ちっぽけな世界の端っこで

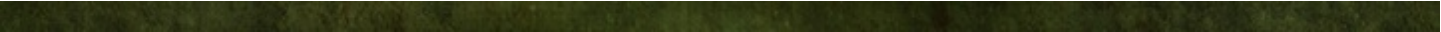
ちっぽけな世界の端っこで
私達は生まれた

歓迎されず
感謝もされず
求められず
奪われもせず
褒められず
叱られもせず
善も悪もなく

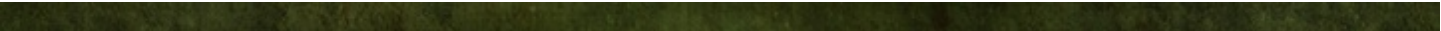
音もたてずに生まれた
私達はあなたの中に生まれた



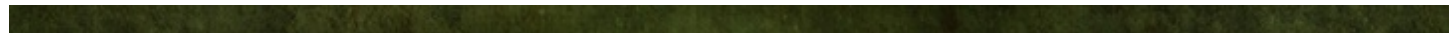
生まれ



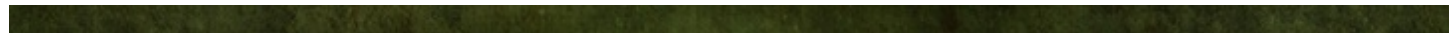
僕が生まれ落ちた時にはもう、
世界が意思を持っていた。
僕が知らない世界を
世界は歴史に刻んでいる。



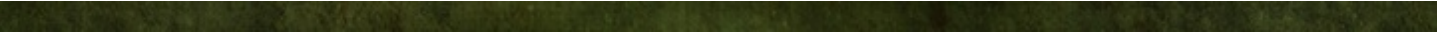
バカ



人の目に気付いてすらいなかった幼少時代
今では人の顔色伺って
バカみたいバカみたいバカみたい。

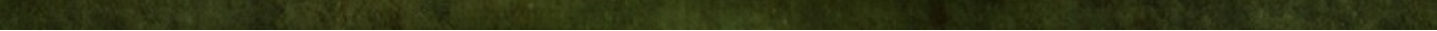


あと

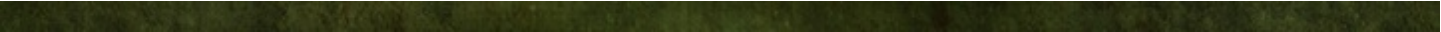


泣いた跡だろう
ソレも、コレも。

泣いた後だろう
昨日も、今日でさえ。



請う



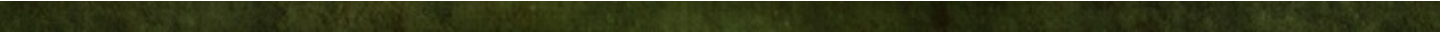
許しを請う、請う。
愚かで滑稽な行為でも、何度でも。

透明な羽根を生やし、ジャンプする。
あの日に許しを請えたなら・・・
今も、これからも、ずっと

許しを請う、請う。



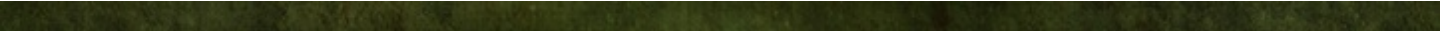
使用例



救う手がありゃ
奪う手がある

救って奪ってを繰り返す世の中で
どれだけ手を差し伸べ続けられるだろう

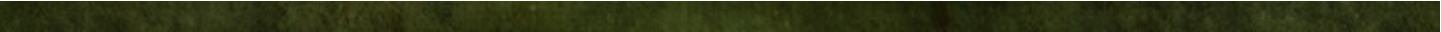
奪う手すら救ってみせたい



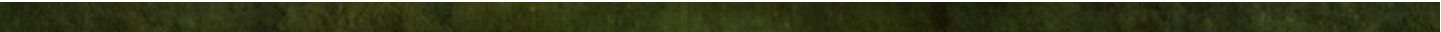
『どっかの誰かさんみたい』が、いけないことなの？

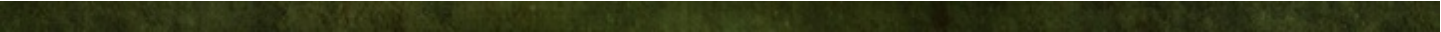
私はどっかの誰かさんから生まれてきたし、
私はどっかの誰かさんの歌で胸を打たれたり、
私はどっかの誰かさんの優しさに救われたりしたんだから。
心が動いた確かな証なんだからいいじゃないの。

ちっぽけ

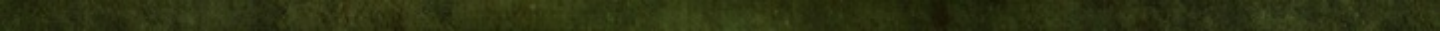


ちっぽけな僕のちっぽけな視界の隅っこに
ちっぽけな蚊を見つけて僕はそのちっぽけを追う



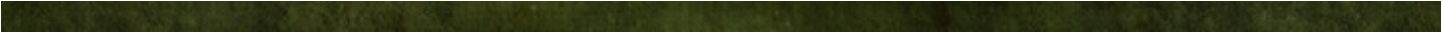


明け暮れ 荒れ果て あれほどに
あなたを あいした あまいよる



“時”を収めて、
“あなた”を想う。
忘れない為に。

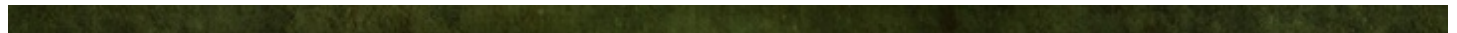




“キミ”を思い出せないのに、
“キミ”を忘れる事が出来ない。
“キミ”を想う事だけ覚えてる。

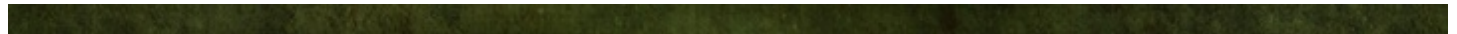


どうして？

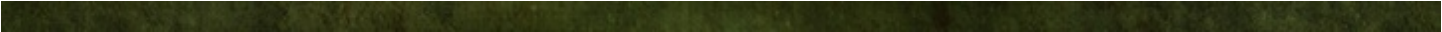


もう無垢な子供でもないのに、
『どうして』が尽きなくて苦しい

もう無垢な子供ではないから、
『どうして』も言えずに終わった

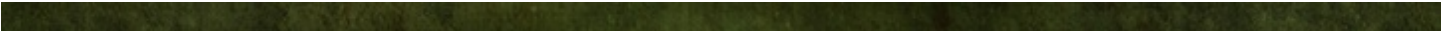


理想像

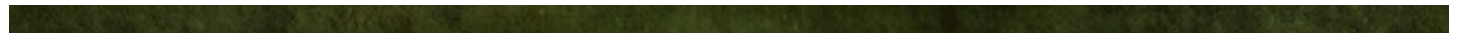


あなたのようになりたかったの。
あなたになりたいわけじゃないのに、
今頃違いに気付くなんてね。

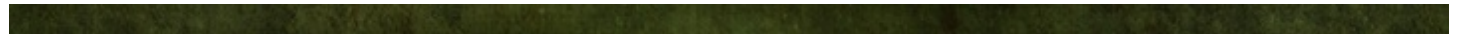
あなたのようになりたかったの。
方法なんていくらでもあるのにね。



生きる術



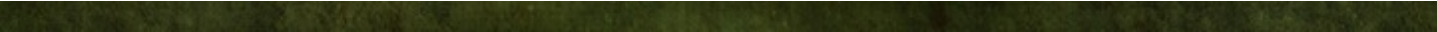
わたしの脳ミソは欠陥品だから
きみのことを忘れてしまう
人に備わった『忘れる』という本能に振り回されて
きみのことを忘れてしまう
前向きなはずの後ろ向きな行為



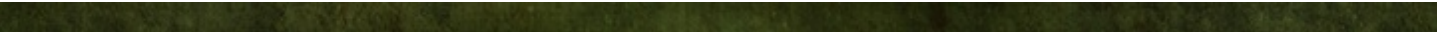
今

今を見捨てないで
未来や過去ばかりで
今を後回しにしないで

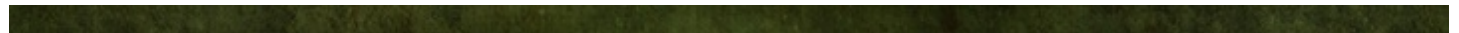
グローブ



どんな球でも受け止めてみせる。
専用のグローブで。



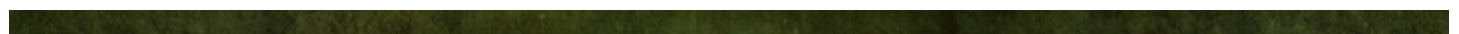
宝探しの様に



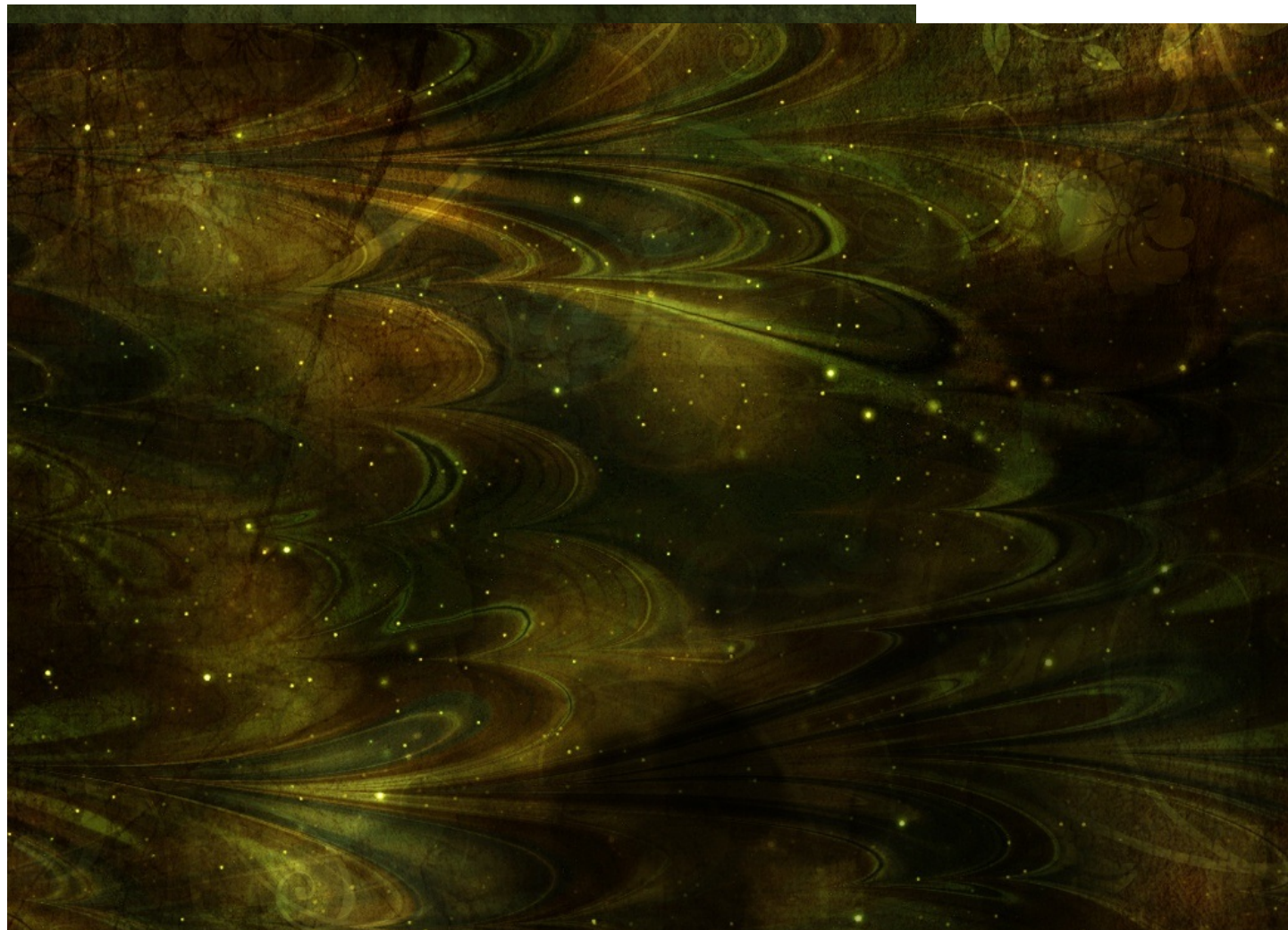
きみの世界と
ぼくの世界が
重なって絡まる場所を
探しているんだよ

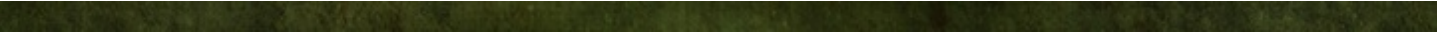
重なって色濃くなる瞬間を
絡まって分厚くなる瞬間を
探しているんだよ

その場所に全ての気付きが隠されている

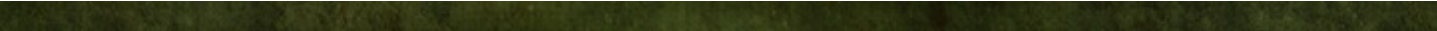


泣いて泣いて泣いた夜に
きみを足したら笑えたんだ

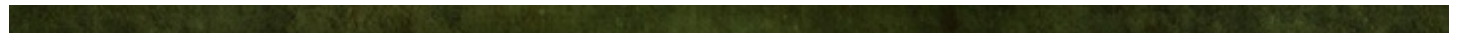




命を削る位、
貴方を愛した日々でさえ、
他人から見たらただのおままごとよね。



反射作用



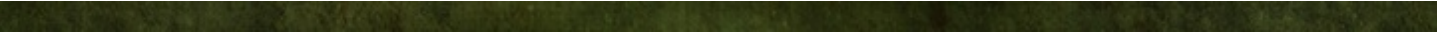
もう何年も、呪われている。

—どうせ私には出来ない。
—嫌いなんでしょ、私のこと。
—あんたなんて死んでしまえ。

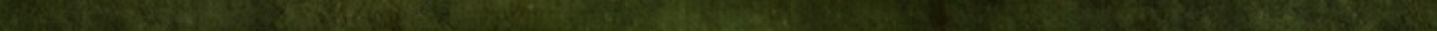
呪っているのは、誰だろうね。
目の前の鏡が反射してる。



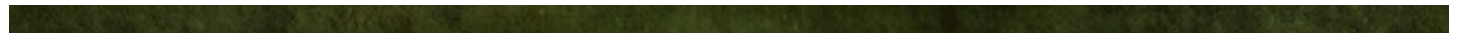
そこから先を



やりたいことは山ほどあるのに。
やりたいことは山ほどあるのに、で終わった。



息



咄嗟に飲み込んだ
吐き出せず
止まったものが
肺の辺りで
詰まっている

息がうまく出来ない



耳障り



内なるエゴイストを押し潰す。
ぐちゃり。
今もエゴイストの悲鳴が耳から離れない。



景色の違い



僕は目がとても悪いのに
メガネを掛けるのを辞めたんだ
その理由を君に理解できるかい？

いつもキレイなものを
見てきた君に理解ができるかい？



時を越え

キリストを殺めたのは自分ではないと言い切れるのか。
世界は過去も今も未来も繋がっているというのに。
僕のくすんだ今の心が、あの日の悲劇を引き起こしたかもしれない。
今の世界の歪みが、これからを切り離してしまうかもしれない。
今だから出来ることがあるのではないか。
今だからすべきことがあるのではないか。



修正液



それは間違いを覆い隠してゆく
かさぶたのように蔓延（はびこ）って
限りない白を目指し痕跡は残る

時が経ち
上書きされたとしても
隠しきれやしないさ
裏側が覚えてる

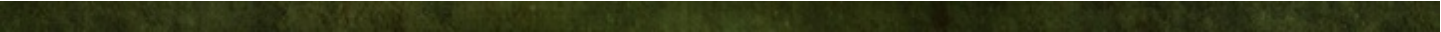
乾ききらぬまま傷を触らないで
今にも凹凸になり棘と化すから

ザラザラざらざら・・・
破片が飛び散る

白を主張し騙す悪徳
君はいらないさ
ホラ、こうやって線を引く

見た目が汚くとも傷は残れども
そこには何よりも真実が残るから

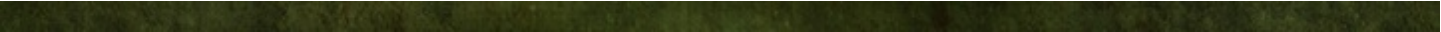




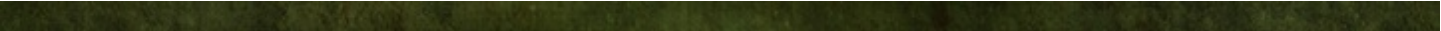
キミはとても真っ直ぐだから、
目を背けられないんだね。
もっと上手に目隠しを使えば良いよ。
でないとキミが絶望してしまう。

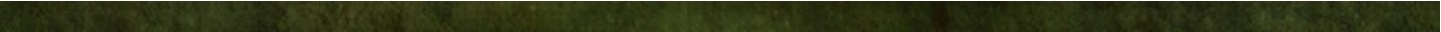


向き合う

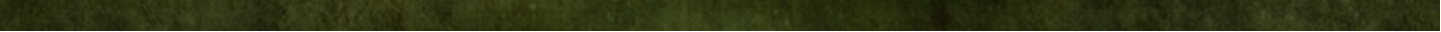


向き合うって意味わかってんの？
そんな片手間に返事されたって
伝わらないんだってば

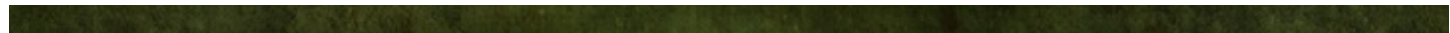




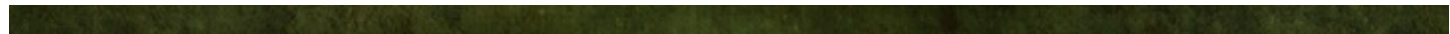
根こそぎ吐き出すのに、一生かかりそう。
どこまでも“私”は尽きない。



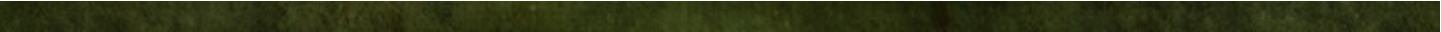
痛み



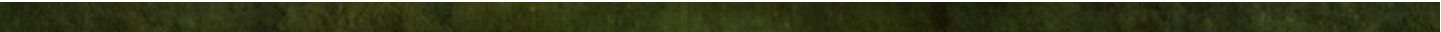
堕ちて堕ちて堕ちていくことが唯一
死んでるような世界で生きてる実感を得られた
血を流すことや傷つくことが唯一
鼓動を感じる手段で・・・



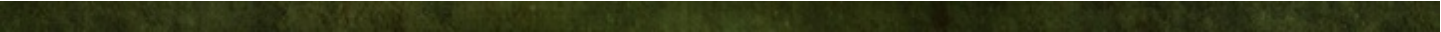
進化



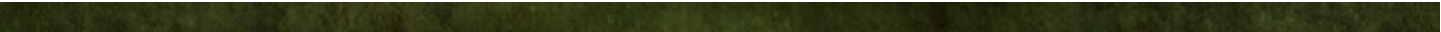
満足のいくものを作れる日は来ない。
細胞は進化する。



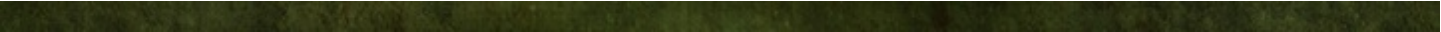
ちから



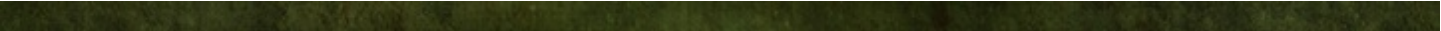
言葉は一瞬だけど
一生に成りうる力を持ってる



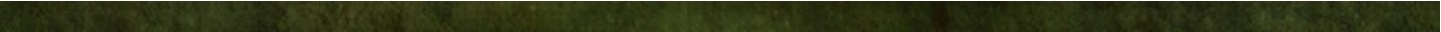
味



目の前の吸血鬼がこちらを見る。
『お前、不味そうだな』
一言吐き捨てると、吸血鬼は闇に消えていった。



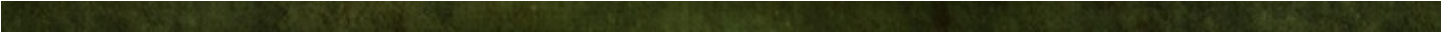
知ること



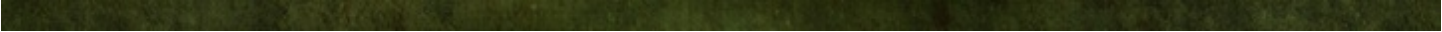
いくら頭で考えたって
感情は体験でしか得られないから
行動で示すよ
感情を得ることで人を知りたい



溶け出す



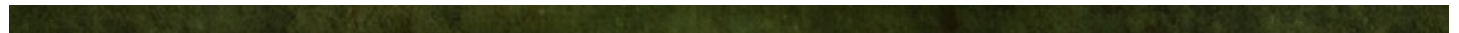
『人の隣で眠れない』といつか言った彼女が
今では僕の隣で眠ってる



時間は戻らない
時間は止まらない
私たちも戻れない
私たちも止まらない



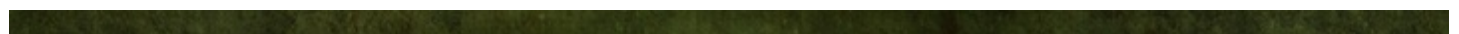
代名詞



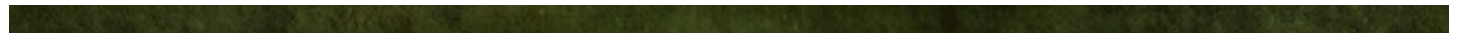
昨日と真逆のことを言う
こんな私を否定や批判で終わらせないで
あるがままを見ていて欲しい

私が『お母さん』しか知らない様に
お母さんも『娘』しか知らないでしょう

今見えているものは断片だから
もっと奥を見ていて欲しい
同じ様に感じて欲しい



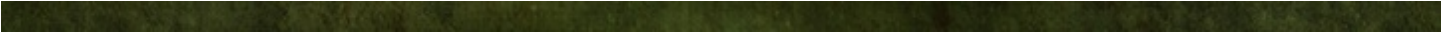
ひとつ



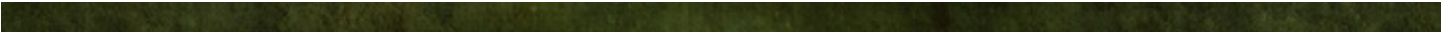
ちょっと寒いくらいが
ちょうどいいの
心と体温がシンクロするから
ちょっと丸まれば
わたしは1つになれるの
ざわついたわたしが
やっと納まるの



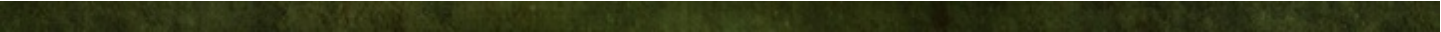
救出



胸を張っていいんだよ
生きること君は君を救ってる



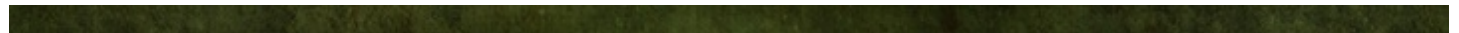
有限と無限



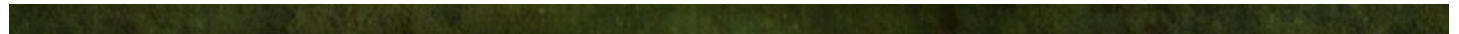
限りある僕の人生に
限らない心ぶちこんで
定められた運命なんてのも
一掃させてしまおう



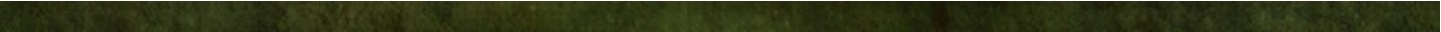
もちもの



自信も誇りも実は持ってんだ
ちっぽけでも確かにそこにあんだよ
いつまで隠してんだよそんな大そうなもん
見せ付けてやりゃいいのさ
その気になりゃ手に入らないものの少ない

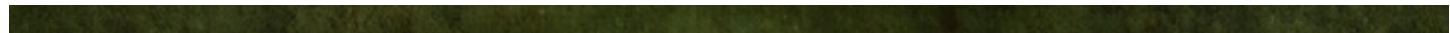


立ち位置



どこを目指していくの？
なにを使ってどうやって辿り着く気？
立ってる場所が分からなきゃ
いき方さえわかんないだろ





全体止まれ！
で止まる様な奴なのか？
全体休め！
で休む様な奴なのか？
そんなんじゃいつまでたっても
横の奴と変わらないだろ？

全体止まれ！
でいつまで止まってんだ？
全体休め！
でいつまで休んでんだ？

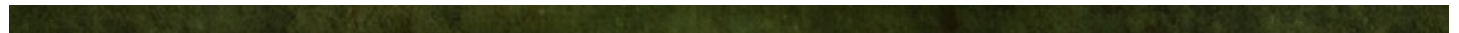
回れ右なんてまだ早いだろ！
死ぬ間際までとっときな



！

気づきはいつも後からやってくる
後悔に似ているようで正反対だ
気付く事で人は変わっていける

生まれ変わる

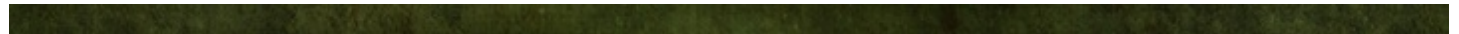


カサカサと、肌が捲れ上がる。

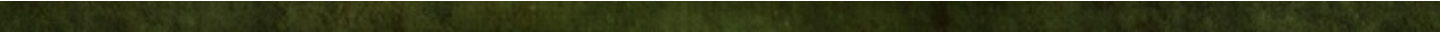
やがて角質は剥がれ落ちる。

その時、確かに細胞は生まれ変わったのだ。

その時、確かに私の一部は生まれ変わったのだ。



はじまる



私が立ち止まったって、
世界は毎日生まれ変わる。
世界は始まり続ける。

